

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立 畑野小学校

「やさしくかしくたくましく」
これが、畑野小学校の教育目標です。

現在、在籍児童は、137名で各学年一学級で学習しています。校舎の前庭には、樹齢何十年にもなる立派な樹木が立ち並び、毎日子どもたちの登下校を見守っています。中庭にもいろいろな花木や草花、遊具があり、子どもたちにとって「遊びのオアシス」となっています。

本校の年間のめあては「ほほか言葉でここに笑顔」の実践です。上級生と下級生が互いに協力し合う縦割班活動を大切に行います。運動会や文化祭等の行事では、学年の枠を超えたプロジェクト活動を行い、児童が主体的に行事に関わることで、「思いやり」や「自主性」を育てています。本校の特色ある教育活動の一つに6年生が行う「大菊づくり」があります。



文化祭で飾られた大菊

6年生は毎年、この大菊栽培にチャレンジし、文化祭に展示したり、地域に飾ったりしています。冬越しした株から、毎年挿し芽をして育てます。夏休みでも、毎日水やりやわき芽かきを欠かさず頑張りました。この活動を通して、命のつながりや生き物を育てる大変さや大切さを学んでいます。

もう一つは5年生が行う自然宿泊体験活動です。毎年「素浜青少年自然の家」でキャンプをしています。飯ごう炊飯やテント張りの他、カヌーやバナナボート等のマリンスポーツ体験をします。みんなその時は大喜びです。そのような楽しい体験をしながら、自然に親しむとともに、好ましい人間関係や集団生活の在り方を学習します。



マリンスポーツ体験

この畑野小学校で学んだ6年間で「畑野」「佐渡」という地域に誇りを持ち、心のふるさととして生涯忘れることのない思い出をたくさんつくっています。これからも、大変教育熱心で協力的な地域や家庭に支えられながら、共に手を取りあつて教育活動を進めていきます。

◆教育委員会学校教育課(両津支所内)
☎23-4898

ジオパーク、推進日記

⑦

大地のひび割れ「断層」

東日本大震災以降、活断層かつたんそうのことを気にする人が増えたそうです。活断層とは、現在も地震を引き起こす可能性がある断層のことです。佐渡にも活断層はたくさんあります。西三川・砂金山ジオサイトの大須鼻ではそのような断層を間近で観察することが出来ます。

市報6月号で、佐渡島は大地が押しされることよつて作られた「大地のしわ」であると紹介しました。この押される力によつてできた「ひび割れ」が、大須鼻の活断層です。地球の表面はこの「大地のひび割れ」だらけなのです。こんにやくに左右から力を加えるとぐにやりと曲がりますが、カチコチに凍らせたこんにやくは、きつとバキッと割れてしまふでしょう。このバキッと割れるものを「断層」といい、ぐにやりと曲がるものを「褶曲しゅうきよく」と言います。

最近テレビを見ていると、よく緊急地震速報が流れますが、あれはどこかの活断層が活動をしていると、地球は毎日押されたり、引つ張られ

たり、引き裂かれたりと、ハードなスケジュールを送っているのですね。

活断層は地震を引き起こします。その地震により佐渡島はどんどん隆起していき(一年に平均約1ミリの速度)、現在私たちが住むことのできる土地ができあがりました。大地の活動は、長い目で見れば、私たちに恵みをもたらしてくれるともいえます。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室
(両津郷土博物館内) ☎23-2100



図1 大須鼻の活断層
丸い大きな石がずれているのがわかる